

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	音楽A		
英文授業科目名	Music A		
開講年度	2008年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	長岡 英		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>西洋音楽史--古典派の音楽--</p> <p>西洋音楽は私たち日本人の生活の中に溶け込んでいて、テレビ・コマーシャルなどにさまざまなクラシックが使われている。音楽Aではウィーン古典派を中心に、クラシック音楽の基本レパートリーとその歴史に関する理解を深める。</p> <p>音楽の本来の姿は「鳴り響き」である。したがって試験では、授業で取り上げた曲のいくつかを聞いて、作曲家名、題名などを同定したうえでその曲に関して論述する、リスニング問題も出題する。西洋クラシック音楽に関する、大学生としての教養・常識を身につけることが目標である。</p>
---

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>なし。</p>
---

<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b></p> <p>世界史と音楽の基礎知識があることが望まれる。</p>
---

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【教科書等】

教科書：久保田 慶一、ほか「はじめての音楽史」音楽之友社

### 【授業内容とその進め方】

代表的な作品を時代順に聴き、分析することにより、ウィーン古典派の音楽と歴史的意義を考察する。

予定

- 第1回 音楽史概観
- 第2回 古典派に至る音楽1
- 第3回 古典派に至る音楽2
- 第4回 古典派に至る音楽3
- 第5回 古典派に至る音楽4
- 第6回 ハイドン1
- 第7回 ハイドン2
- 第8回 モーツァルト1
- 第9回 モーツァルト2
- 第10回 モーツァルト3
- 第11回 モーツァルト4
- 第12回 ベートーヴェン1
- 第13回 ベートーヴェン2
- 第14回 ベートーヴェン3
- 第15回 シューベルト
- 第16回 予備日

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2 / 3 以上出席して学期末試験を受けることが採点の対象となる条件。

### 【オフィスアワー：授業相談】

特に設けないので、講義開始前・終了後に申し出てください。

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【学生へのメッセージ】

この講義の目的は音楽を聴くことではなく、聴き方を学ぶことである。音楽的能力（楽譜を読む能力や楽典などの知識）は問わないが、機能和声の理論やソナタ形式の分析等も扱うので、受け身で音楽を聞き流すのではなく、積極的な学習態度が必要である。

最低限の板書しかしないので、必要に応じてメモをとること。

### 【その他】